

パンフの町が教えてくれた山岳文化

東川アウトドアフェスがつなぐロッキー山脈からの風

東川アウトドアフェスティバル実行委員長、山ガイド 青木 倫子

昨年11月12日、町の文化芸術交流センターで開いた「東川アウトドアフェスティバル」は、330人を超える来場者があり、今年も盛り上がりを見せました。このフェスティバルを開いたきっかけは、山岳業界でエベレスト級と呼ばれるイベントに発展している本場、カナダの「バンフ・マウンテン・ブック&フィルム・フェスティバル」。私たちは、この東川でもバンフのような新たな山岳文化をつくりたい、と本場のフェスティバル会場に出かけて様子を視察し東川をPRしてきました。

東川町のイベントは、6年前に「バンフマウンテンフィルムフェスティバルin東川」という名で始まりました。カナダ・ロッキー山脈に囲まれた町、バンフで開催されている世界有数のアウトドア映画祭でノミネートされた作品を、東川で自主上映するというイベントでした。

「冬山シーズンが始まる前の閑散期に楽しめることは？」「大雪山や東川の自然、そして山好きの人々の魅力を伝えることはできないだろうか？」。私のそんな思いを集結したのが、このフィルム上映会の始まりでした。

HOF（ホフ）Ⅱとなったイベントは今、最初のころに比べて大きく発展しました。当初と変わらず、有志による運営、そしてつながりで成り立っています。会場では、地元で愛されているアウトドアショップや飲食店が並び、そして本州から大手アウトドアブランドの関係者や写真家が東川へ足を運んでくれるようになりまし。つながりと賛同してくれる思いで実現

できているのです。有志が集まって、有志による運営ならではの温かくて楽しい雰囲気があふれています。

BMMFに参加して

東川で始めたイベント活動をきっかけに、私たちは2015年と昨年11月上旬、2年続けて本場カナダの「バンフ・マウンテン・ブック&フィルム・フェスティバル」（以下、BMMF）に東川町として出展す

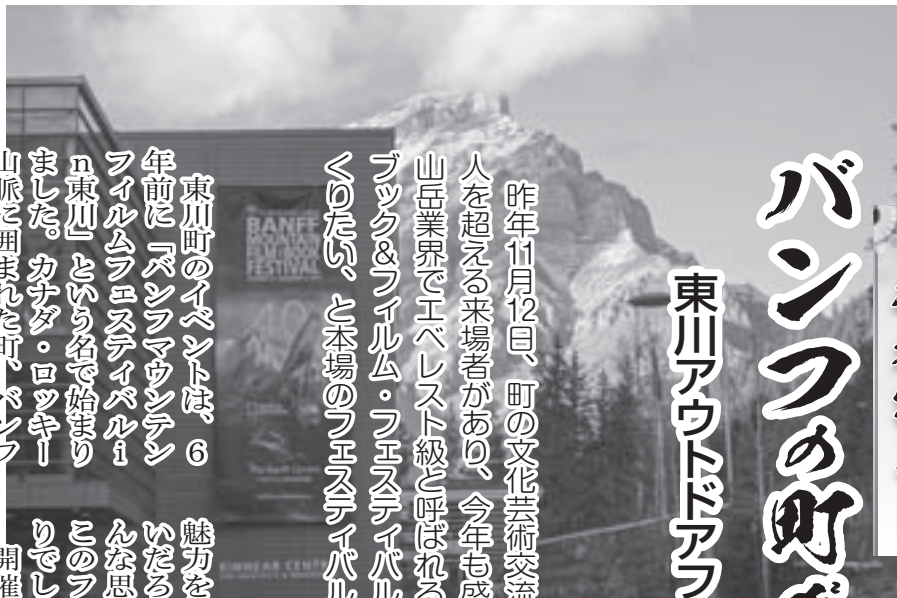
ることができました。バンフ町の隣町で東川と姉妹提携しているキャンモア町も訪問しました。2度の訪加の目的は、BMMFの出展ブースで東川町と大雪山の観光プロモーション、そしてキャンモアと東川との姉妹町提携に関するPR活動です。

BMMFは、1976年小さな町、バンフでスタートしました。登山家やアウトドア愛好者が登山シーズンとスキーシーズンの狭間に楽しめる年中行事を探し、1日だけの登山映画祭として始まったものです。今では10日間にも渡って開かれ、閑散期の町に多くのアウトドア愛好者が集まってきます。

去年は開催40周年目という記念すべき年でした。私は、そんな年に出展することができたのです。実は当初、ブース出展の申請時に競争率が高く、「空きスペースがない」と言われていたのです。

しかし現地の山岳ガイドの友人達の協力、東川でBMMFのフィルム上映を

BMFFメイン会場のパンフセンター



行っていること、キャンモア町と姉妹関係があること、そしてBMMFの第19回フェスティバルのポスターに、冬の大雪山旭岳の写真を用いていたこと、などいろいろなつながりがあることが好感され考慮されたく、私達は、めでたく出展スペースを確保することに成功したのでした。

そしてそれは、海外からの初の出展者となりました。主催者側からも喜ばれたのでした。

毎日夜遅くまでフィルムが上映され、町内のギャラリーや博物館などでも山やアウトドアを題材にした写真や絵の展示を楽しめます。さまざまなワークショップもあり、町内にある山をゴンドラで上がって頂上でヨガをしたり（旭岳で例えると、11月の姿見でヨガをするようなもの）、トップアスリートと一緒に山を走ることなどもできます。そして出展ブースもイベント内で人気のあるプログラムの一つです。

ここ数年の1、2月の旭岳を訪れると一目瞭然であるように、冬の北海道は海外から高い注目を浴びています。まさにその通りで、「ジャパン、ホッカイドウ、パウダースノー！」と多くの雪好きの方々が私達のブースを訪れてくれました。今回の2度目の出展時は、「桜とスキーを同時に楽しみたい」という声が多くなっていました。

大雪山エリアのアウトドア文化へ

「桜とスキーを同時に楽しみたい」という声が多くなっていました。



満員の観客で熱気あふれるフィルム上映会場(昨年11月6日、パンフセンター)

雪山や東川を訪れてくれるガイドや旅行会社も現れるようになってくれました。私たちはHOFイベントをきっかけに、カナダで観光プロモーション、そしてアウトドアを通して国際交流を始めることができました。改めてパンフを訪れたことで、新たな気づきも多かったと感じます。

パンフ町やキャンモア町では、アウトドアはスポーツとしてだけでなく、アートやライフスタイルの一部として親しまれています。東川町もまた、大雪山という素晴らしい山岳エリアの「アウトドアスポーツ」と「写真、クラフト、陶芸などのアート」が融合したアウトドア文化を築き上げるのに十分な要素や人材が存在しています。それが魅力の一つに加われば、さらに町の暮らしや自然は豊かなものになるのではないかと感じます。時間はかかるが、カナダで感じたことを東川アウトドアフェスティバルを通して発信していきたいと思っています。



パンフセンターで開いた東川町PRブース(2015年11月、接客中の右3人の中央で立っているのが私。帽子をかぶって座っているのは同行した中川伸也さん)

「マーケティングプレイス」と呼ばれ、実際に物の販売が可能です。アウトドアグッズ、アウトドアに特化した本や写真集、そして多民族国家ならではのエスニック雑貨や自然にやさしい地元の石鹸など、幅広い商品も販売し

今年観光のお客さんと大